



能楽ルーマニア公演



「葵上」撮影：前島吉裕

「日本・ドナウ交流年2009」、日本・ルーマニア外交関係再開50周年のオープニングイベントとして、能・狂言公演がブカレスト国立劇場にて行われます。重要無形文化財（総合指定）保持者である武田志房氏（社団法人能楽協会常務理事 シテ方観世流 能楽師）をはじめとする日本の能・狂言界を代表する能楽師が出演する舞台は、ルーマニアにおいて初公演となります。この機会にぜひ能楽・狂言の世界を堪能ください。

日時：2009年2月6日（金） 7日（土） 午後7時～

場所：ブカレスト国立劇場 Bd. Nicolae Balcescu nr.2 010051, Bucharest, sector1

演目：「葵上」「伯母ヶ酒」

出演：武田志房、関根祥人、殿田謙吉、善竹隆司、善竹隆平ほか

主催：在ルーマニア日本国大使館、国際交流基金、ブカレスト国立劇場

チケット：ブカレスト国立劇場チケット販売所にてお求めください（チケット販売開始は公演日の2週間前からとなります）。

ブカレスト国立劇場連絡先

TEL：021-314-7171

FAX：021-314-8026

E-MAIL：tnbpress@yahoo.com



演目・あらすじ

能 「葵上 梓之出(あおいのうえ あずさので)」

源氏の正妻葵上(あおいのうえ)が物の怪(もののけ)に悩まされて寝込んでしまったので、源氏は様々な加持祈祷や治療を試みますが、一向に効き目がありません。そこで一計を案じた臣下が巫女に憑き物の正体を占わせてみると、巫女の奏でる梓弓(あずさゆみ。魔除けに鳴らす弓)の音に誘われて、壊れた牛車に乗った霊が現れ、輪廻を離れられずさまよう苦しみをつぶやき始めます。霊は源氏のかつての恋人、六条御息所(ろくじょうみやすどころ)であると名乗り、源氏の愛情が自分から葵上に移った恨みを述べ連ねると、葵上の枕元に立ち寄って責め苛み、黄泉の国へ連れ去ろうとします。そのただならぬ様子に、臣下は下人を遣して、横川小聖(よかわのこひじり)という行者を呼びにやります。駆けつけた小聖が祈祷を始めると、悪鬼へと姿を変えた御息所が現れ、小聖に襲いかかってきます。二人は激しく争いますが、やがて悪鬼は小聖の強い法力によってついに祈り伏せられ、成仏の身となって立ち去るのです。

日本の代表的古典文学「源氏物語」からのエピソード。

狂言 「伯母ヶ酒(おばがさけ)」

酒屋を営む伯母を、甥に当る男が鬼の面(浅悪面)を付けておどし、酒をたらふく飲みますが酔いつぶれて寝てしまい正体がばれるというストーリーです。